

瑞沢 Pecha Kucha Table times vol. 2

—みずさわペチャクチャテーブルタイムス2号—



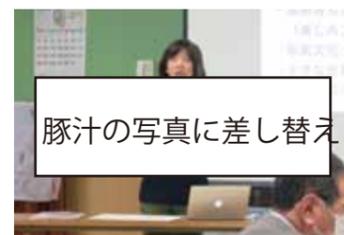
5年後、10年後の瑞沢を考える

お茶をしながら、瑞沢に暮らす人たち同士でまちのこれからを話す瑞沢 Pecha Kucha Table（みずさわペチャクチャテーブル）。第二回目が2月8日に瑞沢小学校多目的ホールで開催されました。この日のテーマは「5年後、10年後のまちの未来を話そう」。テーブルタイムスでは各回の話し合いの様子をお伝えします。

[日時]
2月8日（水）18:30～21:00
[場所]
瑞沢小学校多目的ホール
[参加人数]
19人

[プログラム]
・はじめに
・前回のふりかえり
・ペチャクチャテーブルについて
・まちの取り組みの事例紹介
・自己紹介
・ペチャクチャテーブル
「目指したい未来を描いてみよう」

今日は持ち寄り会！



今回は、具材持ち寄りの豚汁がふるまわれました。参加者が持ってきた具材は大根やこんにゃく、ネギなどの他に餃子なども(!)。この豚汁は各区に今年度より配備された防災釜でつくられました。ご協力有難うございました！

全体の流れ

- 知** まちの資源、課題を知る
- 考** 5年後、10年後の暮らしを考える
- 創** やりたいこと、出来ることを考える

ペチャクチャテーブルは、今年度3回の話し合いを行い、瑞沢地区の今後の地域づくりの方向性と、目指したい将来像にむけて必要な取り組みを考えていきます。

前回のふりかえり



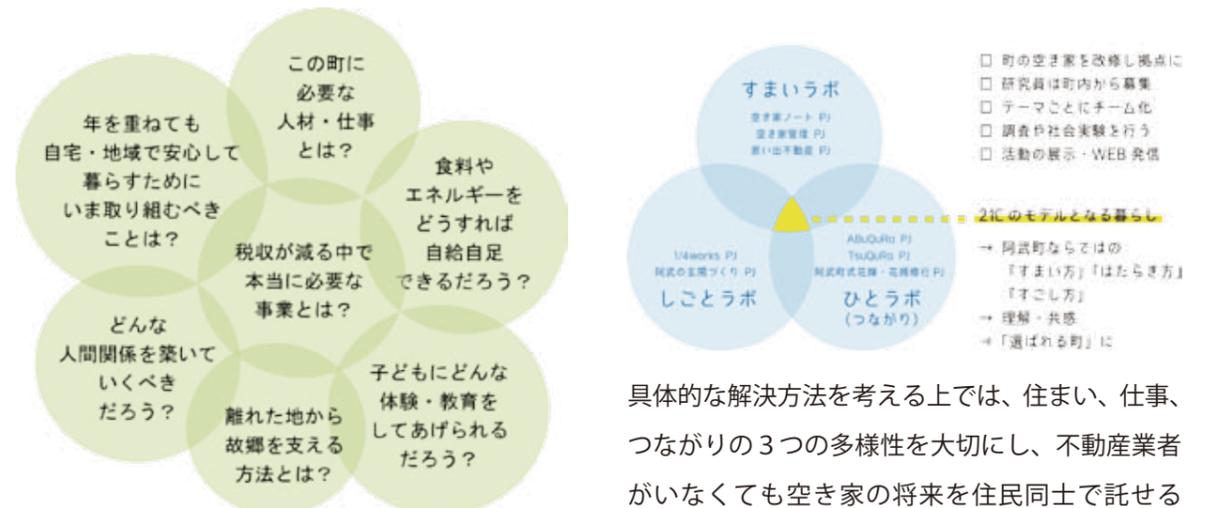
前回のみずさわペチャクチャテーブルでは、参加者自身が感じているまちのいいね（魅力・資源）とモヤモヤ（課題・不安）をテーブルワーク形式で共有、最後にテーブルごとに発表しました。

これから必要とされること

- ・高齢の方の暮らしのケア
 - ・まちで今後も暮らし続けるための交通
 - ・子供たちが遊べる場、学べる場
 - ・高齢者もふくめて地域の人が集まれる（楽しみごとがある）
 - ・伝統文化・習慣を継いでいくこと
 - ・小さな仕事が生まれる可能性
- 大きな変化ではなく、小さな変化

まちの未来を考える“山口県阿武町の取り組み”

山口県阿武町では「選ばれる町」をつくる。をコンセプトに町民にも、帰郷・移住希望者にも、人生の舞台として選ばれ続ける阿武町を目指し、まちの総合戦略を策定しました。



阿武町では、目指すべき未来を住民自身が考える時、人口減少が課題なのではなく、減少に対応できない社会に課題があると考え、その解決方法を考えていきました。

具体的な解決方法を考える上では、住まい、仕事、つながりの3つの多様性を大切に、不動産業者がいなくても空き家の将来を住民同士で託せる「空き家管理プロジェクト」をはじめ、これからの社会に対応する8つのプロジェクトをつくり、「21Cの暮らしかた研究所」という名前で、空き家ツアーなどをスタートさせています。

自己共有タイム「私の将来の理想の暮らし」

話し合いの前に「私の将来の生活妄想シート」を記入し、これから10年先まで、どこで、どんなことをしながら、誰と暮らしているのか、どんな楽しみを持っているのかテーブルごとに共有しました。まちの目指したい未来を考える前にまずは個人の目指したい未来を考えることが重要です。



ペチャクチャタイム「目指したいまちの未来をみんなで話そう」

今日のテーマは、目指したいまちの未来。テーブルごとに、近い未来（！～3年後）から少し先の未来（10年後）まで、どんなまちだったら暮らし続けたいか、理想的なまちはどんなイメージか、話し合いました。下図は各テーブルの意見を取りまとめ、整理したものです。

各テーブルの発表から

どのテーブルも大きくは3つのテーマ、ひと、自然環境、しごとに関する目指したい未来のイメージが見えてきました。たくさんの移住者を増やすのではなく、今の瑞沢の良さを理解した人が多すぎず少なすぎずいる「ちょうどいい暮らし」というのが特徴的だと思います。この「ちょうどいい」を言語化していくと、必要とされる取り組みにつながっていくでしょう。

